第百六十一条

或ル種類ノ公吏ハ各人ト金銭上ノ関係ヲ有スルモノ有リ之ヲ例スルニ公証人執達吏ノ如キ是レナリ而シテ此等ノ公吏ハ特別ノ法律ニ依リ国庫若クハ其他行政廳ニ対シ保證金ヲ納ムル人義務ヲ有スルコト有ル可シ此保証金ハ右ニ掲ゲタル公吏ガ各人ニ對シ言渡サルヽコト有ルベキ損害賠償若クハ返還ノ義務ノ担保タル可キモノナリ

此故ニ右ニ掲ケタル場合ニ於ケル各人ハ強シ

ト法律上ノ一種ノ動産質ヲ有スル債権者ナリト謂フコトヲ得ベク行政廳ハ其動産質ノ監視ノ為メ各人ノ代理人ナリト謂フコトヲ得ベシ立法者ハ本則ノ題目ニ於テ單ニ職務上ノ所為ト掲ゲタリト雖トモ本条ノ明文ニ於テ猶ホ職務上ノ過失又ハ職権ノ濫用ト附記セリ之ヲ要スルニ常ニ右ニ掲ゲタル公吏ノ職務上ノ所為ニ属スルモノタルハ無ヲ俟タズシテ明カナル所ナリ

第九則　保証金貸主ノ先取特権

第百六十二条

保証金ヲ納ムベキ義務ヲ有スル公吏ノ職務ニ適当ナル法律上ノ条件ヲ備フルモノ必ズシモ此必要ナル保証金ヲ納ムルモノ為メニ充分ナル資産ヲ有スルモノニ非ラズ又是レト同ジク充分ノ資産ヲ有スルモノハ常ニ此職務ニ必要ナル資格ヲ具備スルモノニ非ラズ此故ニ資力アルモノヲ奬勵シ左ニ掲クル如キ公吏ノ職ニ任セントスルヲ希望スルモノハ、朋友タルト否トヲ問ハズ此希望者ニ必要ナル証據金ヲ貸シ其

第九則　保証金貸主ノ先取特権

スルノ道ヲ開クコトハ必要ナリ而シテ此奬勵ヲ為スニ最良ノ方法ハ証據金ノ貸主ヲシテ其保証金ニ付キ先取特權ヲ有セシムルコトニシテ

国ヨリ此先取特權ハ保証金ヲ納メタル公吏ノ職務上ノ所為ニ依リ損害ヲ蒙ムリタル債權者ノ有スル先取特權ノ後ニ於テノミ之始メテ行使スルコトヲ得ベシ此故ニ保証金貸主ノ先取特權ハ之ヲ第二位ノ先取特權ト称スルコトヲ得ベシ且ツ即チ法者ガ一方ニ於テ職務上ノ所為ニ對スル債權者ノ先取特權ナル名称ヲ掲ク

ルト同時ニ他ノ一方ニ於テ法文中ニ第二位ノ文字ヲ掲ゲ以テ本条ノ先取特権ノ性質ヲ明カニシタル所以ナリ

然リト雖トモ此第二ノ先取特権ガ債務者ノ他ノ債権者等ノ為メニ意外ノ錯誤ヲ生セシメサルコトヲ欲スルガ故ニ立法者ハ保証金ノ貸主ニシテ此先取特権ヲ至フセントト欲セバ想則ニ従ヒテ其権利ヲ證シタルトキニ限ルモノト定メタリ且ツ其権利ノ証明ヲ為スハ保証金ヲ貸與スル当時ニ於テスルコト最モ確実ニシテ且

為ニ對スル債権者ノ先取特権ナル名称ヲ掲ク

ツ最モ正当ナル可シト雖トモ未タ必ズシモ然ルヲ要セズ唯少シク前条ニ掲ケタル債権者以外ノ債権者ヨリ此保証金ニ対シ何等ノ故障若クハ差押ヲモ為サヾル前ニ於テ此証明ヲ為スコトヲ要ス

立法者ハ前条ニ於テ規定ニ従ヘト言ヘリ蓋シ公吏ノ保証金ノコトヲ規定スルハ民法ニ於テ為スベキ所ノコトニ出ヅサレハナリ即チ如何ナル公吏ハ保証金ヲ納ムベキヤ及ヒ其職務ノ性質及ビ職務ヲ行フ土地ノ如何ニ従ヒ提供ス

ベキ保証金ノ負担如何及ビ保証金ヲ供託スベキ（銀行）（金庫）ニ保証金ヲ供託シタル公吏ノ利益ニ対シテ附与スベキ利子ノ多少等ノ如キハ特別ノ規則ニ由テ定ムベキ所ナリ

第二款　動産ニ係ル特別ノ先取特権ノ順位

第百六十三条

動産ニ係ル特別ノ先取特権ガ一般ノ先取特権若クハ他ノ特別ナル先取特権ト競合スルトキハ新タニ法律ヲ以テ自由ニ其区係ヲ規定シ得ベキトキト雖トモ理論上甚ダ困難ヲ感ズルモ

ノナリ

訴訟費用ハ之ヲ第一位ニ置クコトヲ要ス何トナレバ此費用ハ債権者ノ全体ノ為メニ有益ナルモノニシテ其債権者ガ自カラ先取特権ヲ有スルトキト雖トモ亦然ルヲ可キナリ

然リト雖トモ或ル種類ノ債権者ニ至ツテハ他ノ種類ノ債権者ニ比シ訴訟費用ニ由テ利益ヲ多クスルコト甚ナキハ已ニ説明シタル所ナリ即チ訴訟費用中或ル種類ノモノニ至ツテハ未ダ必ズシモ一切ノ債権者ヲ利スルモノニ非ラズ

第百弟百三十八条及ビ第百四十五条例会バ明示若クハ黙示ノ動産質ニ基ク先取特権ヲ有スル債権者ハ質物ノ競売及ビ代償配当ノ費用ノ為メニ優先セラルベシトノ趣旨ニ出ツルモノニ外ラズ

但シモ一切ノ債権者ヲ利スルモノニ外ラズ

第百弟百三十八条及ビ第百四十五条例会バ明示若クハ黙示ノ動産質ニ基ク先取特権ヲ有スル債権者ハ質物ノ競売及ビ代償配当ノ費用ノ為メニ優先セラルベシトノ趣旨ニ出ツルモノニ外ラズ

但シモ一切ノ債権者ヲ利スルモノニ外ラズ

第百弟百三十八条及ビ第百四十五条例会バ明示若クハ黙示ノ動産質ニ基ク先取特権ヲ有スル債権者ハ質物ノ競売及ビ代償配当ノ費用ノ為メニ優先セラルベシトノ趣旨ニ出ツルモノニ外ラズ

但シモ一切ノ債権者ヲ利スルモノニ外ラズ

他ノ動産ニ至ル封印ヲ施コシ若クハ目録ヲ作ルノ必要ヲ要セサルカ故ニ此ノ如キ費用ニ付イテ何等ノ利益ヲモ受クルモノニ外ラズ

此故ニ訴訟費用ニ至ル方法者ノ設ケタル優先権ニ付テハ此ニ於テ一個ノ区別ヲ為ス

コトヲ要スル是レ本条ノ第一項ノ目的トスル所

ナリ此場合ニ於テハ必ス特別ノ質権ヲ負担ス
ル動産物ノ競売代金ヲ分別スルコトヲ要スル而
シテ此代金中ヨリ先ヅ其競売ニ至ル訴訟費
用ノミヲ弁済セサル可カラズ
然レトモ其他ノ動産物ニ至リテハ競売ニ附シ
タル時日ノ前後利害関係人ノ計算等ノ為メ一
切ノ訴訟費用ヲ一個若クハ数個ノ動産物ニ付
テノミ負担セシメ是レニ由テ此動産物ニ付キ
特別ナル先取特権ヲ有スル債権者ノ権利ヲ害
シ一方ニ於テ他ノ特別ナル先取特権ヲ有スル

債権者ヲシテ不当ノ利益ヲ得セシムルガ如キニ出ラズ此故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ勤メテ同時ニ一切ノ動産物ヲ競売ニ付スルコトヲ宜シク但全然ラサルモ一切ノ動産物ガ競売ニ付セラレ代償タル金円ニ変ズルマデ債権者間ニ於ケル配当ヲ為サザルコトヲ必要トス此ノ如クナルトキハ競売代金在俸ニ付テ訴訟費用ノ無益ヲ為ストキハ恰モ各動産ニ付キ其價額ニ高ニテ平等ノ負担ヲ為サシメタルト同一ノ結果ニ帰スベシ若シ然ラサルトキハ先取特権ヲ有スル

一方ニ於テ他ノ特別ナル先取特権ヲ有スル

名債権者ノ権利ヲシテ全カラシムル為メ先取特権ヲ与ヘタル名動産物ノ代償ヲ分別シ而シテ先ツ其価額ニ高シ平等ニ訴訟費用ヲ引去ルコトヲ要スル外リト雖トモ此ノ如キハ徒ラニ煩雑ノ手数ヲ要スルノミニシテ更ニ利益ヲ看サルベシ

一旦訴訟費用ノ弁済ヲ受ケタル場合ニ於テハ其他ノ一般ノ先取特権ハ競売代金ヲシテ其順位ニ従テ弁済ヲ受クルコトヲ得ベシ此場合ニ於テモ猶一切ノ動産ニ付テ平等ノ弁済ヲ受ク

可キナリ唯債権者ニシテ右動産ノ代償ヲ市別ニテ弁済ヲ受ケンコトヲ欲セバ格別ナリト雖モ是レ唯前ニ述フル如ク法ニ繫属ナル手数ヲ要スルニ止マルベシ之ヲ要スルニ敢テ場合ニ於テモ第三十七条ニ別記シタル順序ヲ以テ右目ノ先取特権ヲ行使スベキコトヲ勿論ナリトスル外リト雖トモ何等ノ特別ナル先取特権ヲモ担セサル他ノ動産物モ亦務メテ之ヲ書却スルコトヲ要スト何トナレバ此ノ如キ動産物モ亦均シク一般ノ先取特権ヲ担保スルモノ

於テモ猶一切ノ動産ニ付テ平等ノ弁済ヲ受ク

ニシテ他ノ動産物ニ先シテ先ツ一般ノ先取特權アル債權ヲ弁済スベキコトヲ命ナシ而ナリ此故ニ此種類ノ動産ガ不充分ナル場合ニ於テノミ始メテ一般ノ先取特權ハ特別ノ先取特權ヲ直相スル動産物ニ付テ行使スルコトヲ得ベシ

此ノ如ク本条ニ於テ特別ノ先取特權ニ比シテ一層ノ保護ヲ一般ノ先取特權ニ與ヘタル所以ノモノハ必竟スルニ此先取特權ヲシテ一般ノ財産ニ付キ設定シタルト同一ノ精神ニ出ツル

モノナリ即チ其債権者等ガ債権者又ハ之ヲ其一般ノ債権者ノ為メニ為シタル者役ノ金額ナルニ基クモノナリ

第百六十四条

立法者ハ本条ノ場合ニ於テ一般ノ先取特権全ク存在セザル若クハ未来且シ有リシモ充分ノ弁済ヲ受ケタルコトヲ想像セリ故ニ本条ノ場合ニ於テハ特別ナル先取特権相互ノ競合ヲ規定スルヲ以テ足レリト為ス然ルニ此場合ニ於テハ前条ノ場合ニ於ケルガ如ク其順位ノ前後ニ

財産ニハ其設定シタルト同一ノ精神ニ出ツル

立法者ハ右ニ掲クル如キ物件ノ種類ニ從ッテ

逐ッテ先取特権ノ列記ヲ為スコトヲ得ズ何ト
ナレバ数個ノ区別ヲ為スコトハ必要ナレバナリ
第一或ル種類ノ債権者ハ自己ニ對シテ優先権
ヲ有スルヿキ先取特権ノ存在スルコトヲ知リ又
ルヤ否ヤヲ区別スルコトヲ要スル是レ即チ其債
権者ノ善意若クハ悪意ヲ区別スルニ在リ
第二先取特権ノ目的トスル所一般ノ動産物ナ
リヤ或ハ特ニ收獲若クハ工業上ノ産物或ハ公
吏ノ保証金等ノ如キモノニ止マルヤヲ区別セ
サルヿカラズ

立法者ハ右ニ掲クル如キ物件ノ種類ニ従ツテ
格別ニ先取特権ノ順位ヲ定メタリ
本条第二項乃至第五項ノ規定ハ一般ノ動産物
ニ関スルモノニシテ第六項及ビ第七項ハ債権
者相互ノ義務若クハ義務ニ関シ第八項乃至第
十項ハ牧獲工業上ノ産物及ビ保證金ナル三個
ノ特別ナル物権ニ関スル規定ナリ
立法者ハ一個若クハ数個ノ先取特権ヲ互相又
ハ動産物ヲ保存シタルモノ、先取特権ヲ以テ
第一位ニ置ケリ（巻首第百五十五条参照此場合

ニ於テ物件ノ保存ヲ為シタル債権者ガ其用ヲ
投ゼサリシトキハ例令ハ質取債権者若クハ賃
主ノ如キ他ノ債権者ハ其担保物ヲ失ヒ利益ヲ
看ルコト能ハサルニ至リシコトヲ論ナリ故ニ
此ノ如キ債権者ハ保存者ノ後ニ於テ始メテ先
取特権ヲ行フコト其当ヲ得タリト為ス
然ルニ数人ノ債権者ガ前後引続キテ保存ノ費
為ヲ為シタルコト実際ニ於テ有リ得ベキ所ナ
ルガ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ最後ニ保存ノ
費為ヲ為シタルモノハ他ノ保存者ニ對シテ優

先権ヲ有スルモノトス而シテ是レ第五条ノ

先権ヲ有スルモノトスルヲ是レ亦タ同ノ理論ニ基クモノナリ蓋シ此最後ノ保存ノ委為ナカリセバ動産物ハ遂ニ滅失シテ他ノ保存者ノ利益ヲ完フセシムルコト能ハサルヲ如ケレバナリ

立法者ガ第二位ニ置ク所ノモノハ明示若クハ默示ヲ以テ使権ヲ有スル所ノ債権者ニシテ第三位ニ置ク所ノ債権者ハ代償ノ弁済ヲ受クルノ条件ヲ以テ債務者ノ資産中ニ物件ヲ加ヘタルモ亦タ其代償ノ弁済ヲ受クルコト能ハサル

委為ヲ為シタルモノハ他ノ保存者ニ對シテ優

債主ナリトス

然レトモ此場合ニ於テハ一個ノ区別ヲ設ケ

トヲ要ス動産質ハ一個ノ動産物権ニシテ債主

ヲ以テ此権利ヲ得タル債権者ハ動産質ノ設定

ニ先ダツ保存ノ費用ニ基ク債権ノ為メニ担保

ヲ減セラルヘキモノニ非ラス此故ニ総合保存

ノ事物ヲ為シタルモノ有ルモ其後ニ至リ之ヲ

知ラスシテ動産質ヲ取得シタルモノ有ルトキ

ハ保存者ノ先取特権ハ質権債権者ニ對シテ優

先スルコトヲ得サルヘシ

是レニヨリテ代償ノ弁済ヲ受ケサル賣主アル
コトヲ知リ其物件ヲ直物ニ取リタル債權者ハ
賣主ノ先取特權ニ由テ優先セラルベシ
特別ナル收獲ニ至ル場合ニ於テハ農業上ノ
稼人ハ物ノ保存者トシテ第一位ニ權利ヲ行フ
コトヲ得ベシ而シテ其第二位ハ債務者ノ資產
中ニ担保物ノ原料ヲ加ヘタルモノトシテ種子
及ビ肥料ノ供給者ニ屬スベシ土地ノ賃貸人ハ
黙示ヲ以テ賃物ヲ取リタル債權者トシテ第三
位ニ先取特權ヲ行フ可キナリ

立法者ハ蠶種及ビ桑葉ノ供給者ノ順位ヲ規定スルコトナシ然レドモ生糸ノ收穫ニ至レテハ此供給者ガ他ノ買取債權者ニ先ニシテ先取特權ヲ行フコトヲ得ベキハ辨ヲ俟タズシテ明カナリ唯價取債權者ガ異意ナル場合ニ於テハ格別ナリトス

若シ工業上ノ產物ニ至スルトキハ職工ハ第一位ヲ有シ土地ノ賃貸人ハ第二位ニ於テ權利ヲ行フベシ

又公吏ノ保証金ニ至レテハ單ニ二個ノ順位ヲ

ルノミ第一ハ職務上ノ事告ニ由テ権利ヲ取得シタル一切ノ債権者ニシテ若シ数人ナルトキハ債権ノ割合ニ應シ平等ノ配当ヲ受クベシ而シテ第二位ハ保証金ヲ貸與ヘタルモノニ属スベシ

保証金ニ至ルテハ一個ノ法言ヲ為スコトヲ要ス即チ保存ノ費用ニ至ルハ別段アラサルコト是レナリ蓋シ保証金ヲ預カリタル金庫ハ之ヲ管理スルノ点ヨリシテ或ル権利ヲ有スルコト有リトスルモ法律上其権利ハ預カリタル金円

ヨリ生ズル利益ヲ以テ相殺セラレタルモノト
ス故ニ時トシテハ金庫ニ於テ別ニ請求スル所
ナキノミナラズ保証金ニ對シ利息ヲ付スルコ
トアルヲ看ルベシ

第三節　不動産ニ係ル特別ノ先取特権

第一款　不動産ニ係ル特別ノ先取特権

因及ビ目的

第百六十七条

立法者ハ本条ノ明文ヲ以テ先取特権ヲ有スル
各種ノ債権ノ性質及ビ其先取特権ノ目的物タ

ル不動産ヲ指示シタリ此条以下ニ於テハ各
債権ニ付キ更ニ適用ノ詳細ヲ説明スベシ

立法者ハ本条ノ明文ヲ以テ先取特権ヲ有スル
金銭ノ支出ノ生産及ビ其先取特権ノ目的物又

ル不動産ヲ指示シタリ次条以下ニ於テハ各
債権ニ付キ更ニ一適用ノ詳細ヲ説明スル心
然リト雖トモ今本節ニ規定スル各先取特権ノ
正当ナル原因ニ付キ一言スル所アルヲ要スル
ヲ以テ之レトキハ本節ノ先取特権ノ基礎トス
ル所モ亦已ニ動産ニ属スル特別ナル先取特権
ニ付イテ屢々述ベタル所ノモノト同一ナリ即
チ債権者ガ對価物ヲ受取ル ノ条件ヲ以テ或ル
有価物ヲ債務者ノ資産中ニ加ヘタルニ債権者
ガ其對価物ヲ受取ルコト能ハズ従テ他ノ債

権者等ガ此有價物ニ付キ之ヲ供與シタル債権者ト競合シテ配当ヲ受クル如キハ決シテ正当ナリト謂フ可カラズ

不動産ノ賣主ノ先取特権交換人ノ先取特権又ハ或ル種類ノ負担ヲ付シテ賠償ヲ為シタルモノハ先取特権ノ如キニ至ツテハ右ニ掲クル理由ノ正当ナルコト特ニ弁明ヲ要セサル所ナリ

共同分割人ノ先取特権ニ付テハ多少疑ヒヲ生スルコトナシト謂フ可カラズ何トナレハ分割ハ元来所有権ノ授受ヲ為サシムルモノニ外ラ

ズシテ唯其所有ヲ表示スルニ過キサル性質ノモノナレバナリ然リト雖トモ此疑ヒハ左ク史

スルニテ唯其右ヲ表示スルニ過ギサル性質ノモノナレバナリ然リト雖トモ此疑ニハ全ク史想ノ基ク基ノニシテ何等ノ基礎モ有セサルコトハ特ニ此先取特権ヲ設ケスルニ当リテ解スルコトヲ得ベシ

工匠技師及ビ工事請負人ノ先取特権ニ付テ言セシニ基シ又債務者ノ資産中ニ全ク新タナル物件ヲ加ヘタルモノニシテ要スルニ常ニ債務者ヲシテ新タナル財産ヲ得セシメ若クハ往来債務者ノ資産中ニ在スル物件ノ價額ヲ増加

元来所有権ノ授受ヲ為サシムルモノニ外ラ

セシメタルモノナリ此故ニ此ノ如キ債権者等ヲシテ優先権ヲ得セシムルモ亦前ニ述ベタル種々ノ先取特権ト同一ノ理由ニ基クモノトス

金銭ノ貸主ニ付與シタル先取特権ニ至ツテハ本条第一第二第三ニ掲ゲタル三種ノ債権者ニ先取特権ヲ與ヘタルト同一ノ理由ニ基クモノナリ蓋シ金銭ノ貸主ハ此債権者ノ地位ヲ継受ケタルモノニ外ナラサレハナリ

以上ニ述ベタル各先取特権ノ目的トスル物件ニ至ツテハ国ヨリ譲渡若クハ分割ニ依リ債務

者ノ資産中ニ属セシメタル物件ナリ唯第三ノ場合ニ於テハ往来債務者ノ資産中ニ存シタル物件ヨリ分離シ債権者ノ要為ニ由テ生ゼシメタル場所ニ就テノミ先取特権ヲ行フコトヲ得ベシ金銭ノ貸主ノ行使スル先取特権ニ至ツテハ本条ノ明文ニ於テ同一ノ不動産ニ付キト掲ゲタルガ如ク貸主ガ売渡ヲ為シタル債権者ノ国有ノ先取特権ヲ行フベキ不動産ナリトス

第一別段 譲渡人ノ先取特権

第百六十六条

不動産抵当人ニシテ先取特権ヲ有スルモノハ
其一ハ実ニ不動産ノ賣主ナリトス
此場合ニ於ケル先取特権ハ譲渡シタル不動産
ヲ以テ目的トスルコトハ本条ニ於テ特ニ立テ
明記セズ蓋シ此事タルヤ已ニ前条ニ於テ明カ
ナル所ナレハナリ
本条ノ先取特権ニ由テ担保スル債権ハ賣買ノ
代價ノ債権ナリ賣買ノ代價ハ一定ノ元本ナル
コトヲ有ルヘク又或ハ一定ノ年賦金ナルコトヲ有
スヘシ而シテ一定ノ元本ナルトキハ一時ニ是
レガ弁済ヲ為スノ合意アルコトヲ有スヘク又時
トシテハ数回ニ分チテ一部宛弁済ヲ為スノ

シガ弁済ヲ為ス ノ合意アルコトヲ又時トシテハ数回ニ分ツテ一分宛其弁済ヲ為スノ約束ナルコトヲ有ル心シ数回ニ分ツテ弁済ヲ為ス場合ニ於テハ未タ弁済ニ至ラサル部分ニ對シテハ利息ヲ付スルノ約ヲ為スコトヲ有ルベシ

年賦ヲ以テ弁済ヲ為スノ約束アル場合ニ於テモ此契約ト同時ニ調理ノ合意成立スル場合アルベシ時トシテハ右ノ年金権若クハ終身ノ年金権ヲ以テ退渡ノ代位ト為スコトヲ有ルベシ（第三十三条第十項）

年金権ヲ以テ

ルベシ而シテ一定ノ元本ナルトキハ一時ニ是

代位ト為シタル場合ニ於テ先取特権ハ軍ニ年金ノ糸流ヲ担保スルノミナラズ従ツテ債務者ガ年金ノ糸流ヲ為サザルトキ債権者ガ元本ノ返還ヲ請求スルニ当リ是レガ担保ヲ為スモノナリ（参看取得編第四七十三条第四九十三条及ビ第四九十四条）

或ル場合ニ於テハ他人タル賣買代價ノ外猶ホ賣主ヲシテ或ル種類ノ負担ヲ有セシムルコト有リ此ノ如キ場合ニ於テハ其負担モ亦均シク

本条ノ先取特権ニ由テ担保セラルベシ唯此ノ

有リ此ノ如キ場合ニ於テハ其負担モ亦均シク
本条ノ先取特権ニ由テ担保セラルヘシ唯此ノ

如クナルニハ次条ニ於テ明定スル如ク其負担
ガ評価セラレ且ツ金銭ニ由テ定メラレタルコ
トヲ必要ト為ス

先取特権ヲ有スル債権人ノ第二ハ共同交換人
ナリトス

蓋則上共同交換人ハ一方ニ於テ或ル財産ヲ他
人ニ譲渡スト同時ニ他ノ一方ニ於テハ其對價
物トシテ他ノ財産ノ所有権ヲ取得スルモノナ
リ此故ニ共同交換人ハ必ズシモ債権者ナリト
謂フコトヲ得ズ然レドモ若シ其他人ニ譲渡シ

又ハ所ノ不動産ガ價額ニ於テ自己ノ受取リタル所ノモノニ比シ大ナル場合ニ於テハ此不動産ヲ譲渡シタル共同交換人ハ其補足トシテ若干ノ金円ヲ對手人ヨリ要求スヘシ故ニ此金額ニ付テハ是レニ對シテ債權ヲ有スルモノナリ但シ其債權タルヤ賣買ノ代價ト甚ダ相類似スル所アルガ故ニ其担保トシテ先取特權ヲ與フルコト決シテ其当ヲ失セリト謂フ可カラズ但シ此場合ニ於テハ動産物ノ交換ノコトニ至シ第百六十六条第二項ニ於テ規定シタル如ク補

第百六十六条第二項ニ於テ規定シタル如ク補

足金ノ額ガ債務シタル不動産ノ價額ノ二分ノ一ヲ超フルトキニ從ツテ区別ヲ為スコトハ必要ナラズ即チ熟レノ場合ニ於テモ不動産ノ交換ニ至ルテハ補足金ハ常ニ賣買代金ノ性質ヲ有スルモノナリ然レトモ他ノ点ニ於テ一個ノ区別ヲ為スコトヲ要ス即チ交換人ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シテ弁済シタル補足金ノ額ガ對價物トシテ供與セラレタル財産ノ價額ヨリ多キ場合ニ於テハ其契約ハ全部ニハテ之ヲ賣買ト看做スコトヲ要ス（第百七条

第三項　或ハ補足金ニ對シテ先取特權ヲ與フル
ヲ敢テ其補足金ハ時トシテ甚ダ僅少ナル可ク
從ツテ先取特權ヲ與フルノ必要ナシト謂フモ
ノ有ラン然レトモ此ノ如キ非難ハ單ニ補足金
ノ僅少ナル場合ニ於テノミ為シ得ベキノミナ
ラズ純然タル臺置ノ場合ニ於テ其代價ガ殆ン
ド全額ノ無流ヲ告リ僅カニ一小部分ノミ未タ
無流ヲ告ラサルトキニ於テモ亦為シ得ベキ所
ナリ固ヨリ此等ノ場合ニ在ツテハ先取特權ナ
ル担保ハ殆ンド名義上ノモノタルニ止マリ債

権者ハ此担保ヲ公示シ且ツ之ヲ利用スル為メ必要ナル補足ヲ履行スル如キ繁雑ノ手数ヲ為スノ必要アラサル可シ然レトモ是レ実際ニ於テ権利者カ之ヲ利用セサルニ止マルノミニシテ法律上ヨリ論スルトキハ債権者ハ充分ニ此権利ヲ有スルモノナリ

交換ノ場合ニ於テ補足金ノ存スルト否トニ係ラズ仍ホ他ノ債権ヲ生スルコト有ルヤシ即チ追奪担保ノ債権是レナリ（参看財産取得編第百八条）此債権モ亦前ニ掲ケタル債権ト均シク譲

ル担保ハ敢テ名義上ノモノタルニ止マリ債

遺シタル不動產上ニ先取特權ヲ有スルモノナリ蓋シ交換人ノ一方ガ交換ニ由テ對手人ニ得セシメタル不動產ガ其取得人ノ債權者ノ共通ノ担保トナリ且シガ為メ遺産人ガ對價物トシテ受取リタル財產ニハキ第三者ノ為メ追奪ヲ受ケ由テ追奪担保ノ債權ヲ行フニ當ツテ當初遺産ニシタル財產ヲ他ノ債權者ニ先ツテ回復スルコト能ハサル如キハ決シテ其者ヲ得タルモノト謂フ可カラズ

不動產遺産人ニシテ先取特權ヲ有スルモノハ

第三ハ賠償者ナリ此場合ニ於テハ其合意元来無償ノモノナルガ故ニ受贈者ハ贈與者ニ對シテ對價物ノ供與ヲ先ツノ義務アルコトナシ然シトモ時トシテハ贈與人ガ自己ノ利益ニ於テ若クハ第三者ノ利益ニ於テ受贈者ニ第ツルニ或ル負担ヲ以テスルコト有ルベシ此場合ニ於テハ贈與者ハ此負担ノ履行ニ付キ受贈者ニ對シテ一個ノ債權ヲ有スルモノナルガ故ニ其担保トシテ是レニ與フルニ先取特權ヲ以テスルコト至当ナリトス贈與ニ附帯セシメタル或ル

不動產復仮人ニシテ先取特權ヲ有スルモノ、

種類ノ負担ガ第三者ノ利益ニ帰スヘキモノナルトキハ贈與者ニシテ單ニ贈與合意ノ解除ノ權利ヲ有スルニ止マラズ仍ホ先取特權ヲ有スル一個ノ債權ヲ有セシト欲スルニハ必ズ自己ノ利益ノ為メニ過多的款ヲ要約シタルコトヲ以テト為ス（參看財產編第三百二十三条第二項及ビ第三項）然レトモ若シ第三者ガ贈與契約ニ干與シ又ハ贈與成立ノ後其合意ノ利益ヲ受諾スルノ意思ヲ表示シタルトキハ（參看財產編第三百二十五条）先取特權ノ担保ヲ有スル債權

ハ此第三者ニ屬スルヲ可シ是レ本第二款ニ於テ之ヲ活者ガ贈與者若クハ其子孫ト招ケタル所以ナリ

ハ此等三者ニ屬スヘキ是レ本条ニ於テ立法者ガ賠償者若クハ其保証人ト掲ケタル所以ナリ

立法者ハ本条ノ末段ニ至リ此先取特権ノ理論ヲ敷衍シ凡テ不動産ノ譲渡人ガ其譲渡ニ依リ自己ノ利益ニ於テ生シ得ヘキ債権ノ為メ一般ニ此担保ヲ供ヘタリ今其適用ヲ示サンニ不動産物ヲ以テ会社ニ於ケル社員ノ出資ト為シ又ハ不動産ニ関シ和解ノ契約ヲ為シ若クハ他ノ無名契約ヲ為シタル場合ノ如キ不動産ノ譲渡人ガ其代償トシテ他ノ不動産ヲ取得シ若クハ

取得スベキ場合ニシテ
最後ニ至リ仍ホ不動産ヲ以テ会社ノ出資ト為
ス場合ニ実シ一ノ証言ヲ為スコトヲ要ス即チ
此不動産ニ実シ本条ニ掲ケタル先取特権有ス
ルトキト雖トモ此先取特権ハ單ニ会社ノ財産
請求ヲ終リタル後社員ノ一身ノ債権者ニ對シ
テノミ有効ナルモノニシテ会社ノ債権者ニ對
シ主張スルコトヲ得サルナリ
第百六十七条
第三者ニ對抗シ得ベキコト即チ他ノ債権者及

第三表ニ對抗シ得ベキコト即チ他ノ債権者及

ビ先取特権ヲ直相スル財産ノ他ノ取得者ニ對シ之ヲ以テ抗拒シ得ベキコトハ先取特権ノ実質ナリトス此故ニ先取特権ノ担保ヲ有スル債権ノ額ハ常ニ金銭ヲ以テ定メラレタルコトヲ必要トスル所シテ実際ニ於テ之ヲ考フルニ売買ノ代價及ビ交換ノ補足金ニ至ツテハ此条件常ニ備ハルモノナリ追奪担保ノ場合ニ於ケル条件及ビ譲渡ニ付着セシメタル負担等ニ至シテハ交換ノ場合ニ於ケルト其他有償名義ノ一切ノ取得ノ場合ニ於ケルトヲ問ハズ立法者ハ金

銭ヲ以テ其価額ヲ定ムルコトヲ必要ト為セリ
而シテ此詳細ハ当初ノ会議ト同時ニ之ヲ為スコトヲ得ベク或ハ爾後ニ至リ特別ノ会議ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得ベシ
又先取特権ハ右ニ掲ケタル条件ヲ備フルノミニテ第三者ノ利益ノ為メ之ヲ公示スルコトヲ必要トスルガ故ニ（各債権者）先取特権ノ公示ヲ為ス場合ニ於テハ第一ニ先取特権ノ存在ヲ知ラシムルノミニテ仍ホ其ノ由ヲ担保セシ
ル債権ノ金額ヲ知ラシムルコトヲ必要トス

ル、債権ノ金額ヲ知ラシムルコトヲ必要トス

ス

第百六十八条

追奪担保ノ訴権ハ追奪アツテ後始メテ生ズル
モノナリ此故ニ未ダ追奪アラサル間ハ此訴権
ハ時効ニ罹ルコトアラサルモノナリ（第百
第百二十五条）然レトモ後ニ至ツテ詳細ノ説
明ヲ為スガ如ク先取特権ニシテ登記ノ方法ニ
依リ一般ニ公示セラレタルトキトハ第三
者ガ除限ナリ先取特権ノ行使ノ如限ヲ有スル
如キハ未ダ其宜シキヲ得タルモノト謂フ可カ

ラズ此ヲ以テ主張者ハ不動産ノ交換若クハ其有償沿革ノ取得ノ時ヨリ十ケ年以内ニ於テ其不動産ガ追奪セラレタル場合ニ明ラサレタル譲渡人ニ其ノ人ニ先ダチ権利ノ担保ヲ以テセズ而シテ此場合ニ於ケル期間ノ起算点ハ譲渡ノ合意ヲ為シタル日附ニシテ決シテ登記ヲ為シタル日附ヨリ起算スルモノニアラズ

加之ナラズ不動産ノ取得人ニシテ自己ノ権利ガ確実ノモノナルヤ否ヤニ付キ疑ヒヲ有スル場合ニ於テハ常ニ之ヲ明カナラシムルヲ得ベ

リ而シテ若シ他人ノ為メニ追奪ヲ受クベキ場

場合ニ於テハ常ニ之ヲ明カナラシムルヲ得ベ

ク而シテ若シ他人ノ為メニ追奪ヲ受クベキ場合ニ於テハ債務人ニ對シ担保ヲ要求スルコトヲ得ベシ是レガ為メニ真正ナル所有者ガ回復ヲ為スコトヲ妨ツコト必要ナラズ（差押財産取得編第百五十六条）此故ニ債務人ガ自己ノ権利ノ担保ヲ有スルコト單ニ十ケ年ニ止マルトスルモ決シテ充分ナラズト謂フコトヲ得ズ又右ニ掲ケタル十ケ年ノ期間満了セサル以前ニ於テ真正ノ所有者ノ為メ現ニ追奪ヲ蒙ムリタル場合ニ於テ其追奪ヲ来スル裁判ガ全ク確定ノ

モノト為リタルトキハ此不動産取得者ハ其判決ヨリ一ケ年内ニ担保ノ請求ヲ為シ且ツ同一期限内ニ之ヲ公示スルコトヲ要トス

若シ對價物トシテ取得シタル財産ガ一個ノ動産ナル場合ニ於テハ其追奪ガ契約ヨリ一ケ年内ニ行ハレ且ツ追奪ヲ受ケタルモノガ追奪ノ裁判ヨリ一ケ月以内ニ担保ノ請求ヲ為シ且ツ之ヲ公示シタル場合ニ限リサレバ先取特権存在セサルモノトス

此ニ付テ一個ノ注意ヲ為スコトヲ要ス若シ

取得人が真正ノ所有者ヨリ追奪ヲ受クルコトナクシテ相保ノ請求ヲ為シ得ベシト信ズル場合ニ於テハ此請求ヲ為スヲ為メニ有スル期限ハ不動産ニ付キ十ケ年ニシテ動産ニ付キ一ケ年タルベシ然レトモ未タ追奪ノ裁判ヲ受ケザルガ故ニ前ニ掲ゲタル如ク一ケ年若クハ一ケ月ナル補充ノ期間ヲ布セサル少シ若シ是レニ反シテ裁判上ノ追奪ヲ蒙ムリタル場合ニ於テハ譲受人ハ其裁判ヨリ一ケ年若クハ一ケ月ノ期限ヲ有スルコトヲ要トモ之ヲ前ニ掲ケタル十ケ

此点ニ付テ一個ノ注意ヲ為スコトヲ要ス若シ

年若クハ一ケ年ノ期間ニ比スルトキハ遠カニ短キヲ覺フベシ何トナレハ裁判ノ当時ニ於ッテハ僅カニ其一部分ノ期間経過シタルニ過キサルコトヲ及ベタル殘餘ノ期間甚タ大ナル可ケレハナリ然レトモ甚シカメ債受人ハ自己ノ請求ヲ遅引スルコト能ハサルモノナリ

二個ノ場合ニ於テ担保ノ請求ノ公示ハ直接ニ之ヲ為スコトヲ得ベノ或ハ債受ヲ為シタル行為ノ登記ノ欄外ニ之ヲ附記シテ為スコトヲ得ベシ

右ニ論ズル如ク一定ノ期限内ニ於テ担保ノ請求及ビ其公示ヲ為スコトヲ必要トシ定メタルハ蓋シ追奪ヲ受ケタルモノガ自カラ供供シタル財産ノ對償物トシテ取得シタル動産若クハ不動産ニ至シ要正ナル所有者ニ由テ為サレタル追奪ノ担保ノ為メ之法者ガ不動産譲渡人ノ先取特権ヲ得セシメ以テ先取特権ノ系則ノ適用ニ付キ本法ヲ以テ定メタル擴張ノ一個ノ制限ナリト謂フコトヲ得ベシ若シ譲渡人ニシテ前ニ示シタル二個ノ条件ノ一ヲ備ヘサルトキハ

仍は是レが為メニ逆奪担保ノ債権ヲ失フニ至ラシムトスルモ其債権ノ担保タル先取特権ハ之ヲ有スルコト能ハサルモノトス

第百六十九条

譲渡人ノ先取特権ノ基礎トスル所ノモノハ債権者ガ債務者ノ資産ヲ増加セシメタリト認フル事リ此ヲ以テ若シ譲渡シタル不動産ニシテ爾後債務者ノ所為若シハ費用ニ因テ増價セシ又ハ改良セラレタル場合ニ於テハ此増價ハ先取特権ヲ有スル債権者ニ帰スヘキモノニ非ラ

取特権ヲ有スル債権者ニ帰スヘキモノニ帰シ

スルヲ債務者ノ債権者一同ノ利益ニ帰スヘキ

モノナリ

第二則　共同分割者ノ先取特権

第百七十条及ヒ第百七十一条

近世法学上ニ於ケル分割ノ性質及ビ本法ニ於

テ定メタル分割ノ性質ハ已ニ財産編第十四条

及ビ財産取得編第百五十五条ニ於テ之ヲ明カ

ニシタリ分割ハ一種ノ交換ナリト謂フヘキヲ

得ズ即チ所有権ヲ授受スル一個ノ所為ニ帰シ

ズ二人以上ノモノガ財産ノ分割ヲ為スモ是ガ

為メニ共有者ノ各自ハ不分財産ノ一個若クハ
數個ニ付キ自己ノ有スル權利ヲ他ノ共有者ニ與ヘ
不二テ他ノ一個若クハ數個ノ不分財産ニ付キ
他ノ共有者ノ權利ヲ譲受ケ因ッテ一人ニテ完
全ノ權利ヲ有スルニ至ルモノニ限ラズ之ヲ要
スルニ分割ナル行為ハ全ク所有權ノ所在ヲ表
示スルモノニ外ナラズ即チ分割以前ニ於テ共
有者相互ノ權利ノ目的タル物ハ全ク確定ナラ
ズト雖トモ分割ニ由テ始メテ之ヲ確定セシム
ルモノナリ而シテ此ノ如キ結果ハ元来事物自

然ノ理ニ基クモノニ非ラズシテ全ク実際上ノ便益ヲ以テ理由トスルモノニシテ之ヲ法律上ノ假想ニ基クモノナリト謂フコトヲ得ベシ此事タルヤ已ニ財産編第十四条及ビ財産取得編第百五十五条ノ下ニ於テ充分ナル説明ヲ為シタル所ナリ共同分割人ノ各自ハ分割ニ由テ自己ノ持分ニ帰シタル財産ニ付キ当初ヨリ全ク一人ニテ之ヲ取得シタルモノト看做サル然レトモ本益ニシテ且ツ至当ナルモノハ立法者ガ之ヲ実ニ之ニ当リ特ニ假想ナルコトヲ明言ス

ルモノナリ而シテ此ノ如キ結果ハ元来事物自

ル必要アラズ此故ニ本法ニ於テハ右ノ結果ヲ生ゼシムル為メ解除条件ノ思想ヲ以テ規定ヲ設セリ即チ共有者ノ権利ハ分割ニ因テ解除セラレ各自ノ所有権ハ此時ヨリ全ク完全ノモノトナリ且ツ其効力ハ不分ヲ生セシメタル当初ニ溯ルモノトス此故ニ会社ノ解散ノ後不分財産ヲ社員間ニ分割シタル場合ニ於テハ各社員ガ各々持分トシテ取得スル所ノモノハ分割ニ由テ取得シタルニ止マラズ全ク会社解散ノ場合ニ於テハ各社員ヲシテ当時会社ノ資産ヲ組成

シカノ如ク財産ニ付キ共有者タラシムルコトヲ定メタル会社契約ニ由テ此権利ヲ取得シ

ニカ一切ノ財産ニ付キ共有者タラシムヿヲ可キヿトヲ定メタル会社契約ニ由テ此権利ヲ取得シタルモノナリ

然レトモ一方ニ於テ合割ナル行為ハ所有権ノ授受ヲ為スモノニ非ラストスルモ仍ホ他ノ一方ニ於テハ全ク数人間ノ合意上ノ行為ナルガ故ニ其間ニ於テ権利若クハ義務ヲ生セシムルヿト有ルモノナリ本条ニ於テ規定スル先取特権ノ担保ヲ有スル債権者ニ此場合ニ於テ生ジタル共同合割者間ノ債権ナリトス

由テ取得シタルニ非ラズ全ク会社解散ノ場合ニ於テハ各社員ヲシテ各特会社ノ資産ヲ組成

立法者ハ本条ノ明文ヲ以テ分割ヨリ生ズル三個ノ債権ヲ明示セリ而シテ其債権ノ種類ニ従ヒ先取特権ノ目的トスル所ノ物モ亦同一ナラズ

此三種ノ債権ハ凡テ同時ニ併立スルコトヲ得サル所ノモノナリ之ヲ詳言スレバ第一ト第二トハ互ニ相抵触スルモノニシテ唯第一及ヒ第二ハ各々第三ト共ニ相合スルコトヲ得ヘシ是レ次ニ至ツテ詳細ノ説明ヲ為スヲ可キ所ナリ

第一ニ注意ヲ為スヘキコトハ分割ヲ為スニ二個ノ方法アルコト是レナリ第一ノ分割ハ現物ヲ以テ之ヲ為スモノニシテ第二ノ分割ハ競賣ニ由テ之ヲ為スモノナリ

第一分割スヘキ財産ノ数甚タ多クシテ其間相類スル所ノモノ勘カラス從テ之ヲ数個ニ分ツコトヲ得ヘキコト有リ之ハ財産ノ数一個ナリト雖トモ其一部分宛ヲ分ツコトヲ得ヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ多少四一ナル持分ヲ生又現物ヲ以テ其有来間ニ分割ヲ為スコトヲ得ヘ

ニ若シ各共有者ニ帰スベキ持分ニ付キ多少ノ不同アル場合ニ於テハ持分ノ大ナルモノヨリ持分ノ小ナルモノニ對シ一定ノ補足金ヲ乗所ニテ之ヲ均一ナラシムルコトヲ得ベシ而シテ現物ヲ以テ分割ヲ為ス場合ニ於テ各共有者ニ帰スベキ持分ガ合壹ヲ以テ定メラレサル場合ニ於テハ抽籤ノ方法ニ由テ之ヲ指定スベシ

現物ヲ以テ価格ヲ為スコト能ハサル場合ニ於テハ競売ニ由テ之ヲ為スベシ

此場合に於て共有者に訓ラサルモノが財產ノ競落ヲ為シタルトキハ其競賣ノ効力ハ全ク通常ノ賣買ト同一ナリトス即チ共有者ハ競落ノ代金又ハ其債權ヲ分割スベキ各競落人ガ代金ノ弁済ヲ為サヽル為メ先取特權ヲ行フノ必要アルトキハ共有者ハ皆賣主ノ資格ヲ以テ競落財產ニ付キ此担保ヲ行フコトヲ得ベシ然レドモ是レニ反シテ共有者ノ一人ガ競落ヲ為シタルトキハ分割ニ由テ其有ニ帰スベキ代價ノ部分ハ其弁済スベキ代價ノ部分ト混同ヲ為スモ

ノニシテ亜シ共有者ノ各自ニ對シ其持分ニ付キテ代償ヲ弗済スルノ義務ヲ有スルモノナリ此ノ如クナラサルニハ分割ノ合意中特ニ共有者等ノ間ニ合意ヲ為シ競落ノ代償ハ競落人ノ持分ニ帰スヘキ部分ヲ除キ凡テ亜ル一人ノ持分ニ帰セシメ然ツテ其一人ニ對シテノミ弗済スヘキコトヲ定メタル場合ナルヲ要ス此場合ニ於テハ競落人タル共有者ニ對シテ代償ノ弗済ヲ請求シ得ヘキモノハ此代償ヲ以テ一人ノ持分ト為シタル共有者ノミニ止マルコト分明

ナリ

以上ニ説明シタル所ヲ以テ分割ヨリ生ズ得ベキ第一及ビ第二ノ債権ハ之ヲ解スルコトヲ得ベシ且ツ其債権ハ同時ニ存在シ得ベキモノニ非ラズシテ互ニ相抵作スルモノタルコトヲ明カナル可シ即チ神足金ノ債権及ビ競落代金ノ債権是レナリ第一ノ債権ハ神足金ノ負担ヲ有スル分割人ノ持分ニ帰シタル一個若クハ数個ノ不動産ヲ以テ先取特権ノ目的物トシ第二ノ債権ハ競落ヲ為シタル不動産ヲ以テ先取特権ノ

目的物ト為ス

第三ノ債権ハ追奪担保ノ債権ナリトス蓋シ分割ハ共同分割人ヲシテ互ニ追奪担保ノ義務ヲ有セシムルモノナレハナリ（巻首財産取得編第百五十六条）

此点ニ付イテハ財産取得編第百五十六条ノ下ニ於テ已ニ説明シタル所ノコトヲ注意セサル可カラス即チ此場合ニ於ケル追奪ハ不分共有ノ間ニ於テ共同分割人カ第三者ニ得セシメタル権利ヨリ生スル追奪ニ比スルコト是レナリ而トナレハ此ノ如キ権利ハ分割ノ効力ニ因テ解除セラルヽモノニシテ且ツ分割ノ行為ガ

ノ間ニ於テ共同分割人ガ第三者ニ得セシメタル権利ヨリ生ズル追奪ニ帰ウサルコト是レナリ

リ何トナレバ此ノ如キ権利ハ分割ノ効力ニ由テ解除セラルヽモノニシテ且ツ分割ノ行為ガ財産ノ授受ヲ為スモノニ非ラズシテ全ク既往ニ溯リ財産ノ表示ヲ為スモノニ過キズト定メラレタルコトモ実ニ此追奪ヲ防ガンコトヲ以テ主タル目的ト為スモノナレバナリ此故ニ本条ニ掲ゲタル如ク追奪ハ本分共有ニ先チテ第三者ガ取得シタル物件ノ結果トシテ生ズル所ノモノナリ従ツテ共同分割人ガ自己ニ属セサル財産ヲ以テ分割中ニ包含セシメタルハ全ク共同

ノ過失タルヲ受カレサルベシ然レドモ共同分割人ヲシテ追奪担保ノ義務ヲ負ハシムル所以ノモノハ敢テ此相互ノ過失ニ出ヲ知シテ却テ何等ノ追奪ヲモ受クルコトナク財産ノ分割ヲ完全ニ受ケタル分割人ガ結局不当ノ利得ヲ得追奪ヲ受ケタル共同分割人ノミ独リ損害ヲ受クルハ其間ニ平等ヲ失シ分割ノ旨趣ニ反スルノ一位ニ在リトス

分割後ニ生ズル真正所有者ノ追奪ハ軍ニ抽籤若シハ合意上ノ指定ニ依リ現物ヲ以テ分割ヲ

若シハ合意上ノ指定ニ依リ現物ヲ以テ分割ヲ

受ケタルモノハ之ニ對シテ行ハルヽモノニ限リ

ラズ仍ホ不足共有ニ屬シタル不動産ヲ競落シ

由テ之ヲ取得シタルモノニ對シテモ猶ホ行ハ

ルヽコトアルベシ此故ニ第三ノ債權ハ前ニ述

ベタル如ク第一若クハ第二ノ債權ト同時ニ存

在スルコトヲ得ベキモノナリ然レトモ是ニ敎

テ二個ノ債權ガ同時ニ同一ノ人ニ由テ行ハル

ヽコトヲ得ベシト謂フニ限ラズ二個ノ債權ハ

各々反對セル方向ニ於テ行ハルヽモノナリ此

故ニ金錢ヲ以テ分割ノ持分ヲ受ケ補足金若ク

ハ競落代金ノ債権ヲ有スル分割人ハ追奪ノ担保ニ付キ其他ノ債務者タル数人又ハ数人トモ二個ノ先取特権ハ将来其行使ヲ受ケル場合ヲ異ニスルノミニテ分割ノ当時ニ在ツテハ共ニ併立スルコトヲ得ベシ

追奪ヲ蒙ムリタル分割人ノ有スル先取特権ノ目的物ハ他ノ共同分割人ノ持分ニ帰シタル一切ノ不動産ナリトスル何トナレバ共同分割人ハ凡テ追奪ノ義務ヲ有スルモノニシテ且ツ其分割ニ由テ取得シタル一切ノ不動産ハ凡テ不当

割ニ由テ取得シタル一切ノ不動産ハ凡テ不当

ノ利得ノ目的タル所ノモノナレバナリ

然レトモ分割ニ由テ不動産ヲ取得シタル数人ノ分割人アル場合ニ於テ各分割人ガ先取特権ヲ互相スヽヿキ割合ハ其不動産ノ價額ヲ以テ標準トスルコトナク全ク各自ノ負担ニ帰スヘキ債務ノ割合ニ基クモノナリ

或ハ分割人ノ一人ニ對シテ全部ノ訴追ヲ為スコトヲ得ヘシト信ズルモノ有ラシ而シテ其理由トスル所ハ二個ノ不可分ニ在ルヤシ即チ追奪担保ノ不可分ナルコト及ビ先取特権ノ不可

分ナルニト是レナリ然レトモ本条ノ場合ニ於ケル各割人相互ノ真正ノ地位ヲ更改スルコトナキヲ要又追奪担保ノ義務ト先取特権ハ元来不可分ノモノナリト雖トモ是レカ為メニ本条ニ於テ立法者カ決定シタル所ノコトヲ妨グルモノニ非ラズ

第一追奪担保ノ不可分ノコトハ二個ノ目的中ノ一ニ付テノミ適用セラルヽ所ノモノナリ（条）

看財産編第三百九十五条第二項即チ譲渡人カ追奪ノ危険ニ對シ譲受人ヲ防禦スルノ点ニ於

追奪ノ危險ニ對シ譲受人ヲ防禦スルノ点ニ於

テハ追奪担保ノ義務ハ至リ不可分ノモノナリ

蓋シ何人ト雖トモ防禦ヲ為シ若クハ之ヲ為サ

ザルノ二個ニ付テ一ヲ為スコトヲ得ベキノミ

半バ之ヲ防禦シ半バ之ヲ防禦セサル能ハサル

可ケレバナリ是レニ反シテ本条ノ場合ニ於テ

ハ最早追奪人ニ對シ共同負割人ヲ防禦スル場

合ニ出ラズ唯其蒙リタル追奪ノ損害ニ付キ

賠償ヲ為スモノナリ此ニ於テカ單ニ一部分ノ

ミノ賠償ヲ為スコト得ベカラサルニ出ラズ

先取特權ノ不可分ニ至ツテハ本条ノ場合ニ於

テモ亦他ノ場合ニ於ケルト均シク不完全ニ其適用ヲ受クルモノナリ然リト雖トモ此事則又ルヤ軍ニ已ニ生ジタル先取特權ニ付テノミ適用ス可キモノタルコトヲ注意スベシ一定ノ債權ニ付テ先取特權ヲ有スル債權者ハ債務者ノ各自ニ對シ且ツ先取特權ヲ負担スル不動産ノ各部ニ付キ全部ニ於テ之ヲ行使スルコトヲ得ルハ勿論ナリ（第百〇七条第百三十二条）然ルニ本条ノ場合ニ於テハ追奪ヲ受ケタル共同負担人ノ債權ハ法律ノ指定シタル限度内ニ於

テハ普通ノ先取特權ト同シク又可分ノ性質ヲ
失フヘキモノナルヿヲ故ニ決シテ右ニ掲ケタル
案則ニ反スルモノト謂フコトヲ得ス
唯如何ナル限度内ニ於テ又如何ナル金額ニ對
シ追奪ヲ受ケタル分割人ノ債權ハ他ノ分割人
ニ對シテ行ハルヿヲ可キモノナルヤハ一個ノ問題
タルヿ可シ然ルニ已ニ述ヘタル如ク此債權ハ損
害賠償ノ債權ニシテ且ツ性質上分ツコトヲ得
ヘキモノナルヿ故ニ其債權ハ共同分割人ノ当初
ノ持分ノ割合ニ應シ其間ニ分別シテ行ハルヿ可

分割人ノ債權ハ法律ノ指定シタル限度内ニ於

キモノナリトス

担保ノ請求ヲ為スニ当リ各分割人ノ持分ヲ計算スルガ為メニハ進捗ヲ受ケタル分割人モ市場合ニ於ケル平等若クハ不同ノ持分ヲ以テ是レニ加ハル可キモノタルコトヲ注意スベシ而シテ此進捗ヲ受ケタル分割人ノ持分ニ對シテハ全ク義務ノ混同アルベシ何トナレバ自己ニ對シテ義務ヲ負フコト能ハサレバナリ而シテ此分割人ガ担保ノ義務ノ持分ノ計算ニ付キ加入ヲ為スコトハ其当ヲ得タルモノナリ何トナレバ

若シ分割者ノ共有ニ屬セサル財產ヲ以テ共有ナリトシ之ヲ分割シタルコト過失ナリトセバ此分割人モ亦此過失ニ與カリタル一人ナレバナリ之ヲ奪フニ進奪ヲ受ケタル分割人モ亦共同ノ錯誤ニ由テ利益ヲ得タルモノト謂フヤ何トナレハ分割中ニ包含スル可カラサル財產ヲ分割シタル所為ニ由テ利益ヲ得タル所ノモノハ軍ニ他ノ共同分割人ニ止マリタルニ訛テ進奪ヲ受ケタルモノハ持分モ亦此財產ノ為ニ第三ノ場價ヲ為シタル可ケレハナリ

分割ノ場合ニ於テモ亦交換ノ場合ニ於ケルト
均シク追奪ガ分割ニ由テ取得シタル不動産ニ
付キ行ハレタルコトヲ必要トセズ蓋シ此場合
ニ於ケル先取特権ノ効用ハ分割人ノ一人ガ特
定ノ不動産若クハ動産ヲ以テ持分トセスシテ条
件ニテ他ノ共同分割人ノ一人若クハ数人ガ不
動産ヲ取得シタルノ一点ニ在リ此場合ニ於テ
分割者ノ一人ガ動産ト不動産トヲ問ハズ法律
上其持分ヲ全フスルコト能ハサルニ不動産ヲ
取得シタルモノハミヲ附持スルコトヲ得ガ

全ク不当ニ利得ヲ得ルモノト謂ハサルヲ得ス
此故ニ追奪ヲ蒙ムリタルモノハ持分ハ動産ナ
ルト不動産ナルトヲ問ハス他ノ分割者ノ不動
産ニ付キ擅害ノ賠償ヲ受クルコト至当ナリト
ス
是レト同一ノ理由ニ依リ分割人ノ一人カ自己
ノ持分トシテ第三者ニ對スル債権ヲ取得シ而
シテ債務者ノ無資力ニ依リ擅害ヲ蒙ムリタル
場合ニ於テモ亦他ノ一切ノ共同分割人ノ取得
シタル不動産ニ付テ追奪担保ノ権利ヲ行フコ

トヲ得ベシ

立法者ハ第百七十一条ニ於テ二個ノ場合ヲ区別セリ

第一ノ場合ハ補足金若クハ競落代金ノ為メニ分割ノ場合ニ於テ債権ヲ生ジタルトキ是レナリ此場合ニ於テハ債務者ハ必ズ共同ニ割人ノ一人タルベシ

第二ノ場合ハ会社解散ノ後不分共有ノ財産中ニ第三者ニ對スル債権存シ之ヲ要スルニ分割以前ヨリ已ニ債権ノ存在シタル場合ナリトス

以前ヨリ已ニ債権ノ存在シタル場合ナリトス

此債権ニ對スル債務者ハ屢々第三者ナルコト有ルベシト雖トモ又時トシテハ共同分割人ノ一人タルコトヲ得ベシ

今右二個ノ場合ニ付テ逐次説明ヲ為スベシ

第一ノ場合分割人ノ一人ガ他ノ一人ニ對シテ補足金若クハ競落代金ヲ弁済スルノ義務ヲ有スル場合ナリ此場合ニ於テ共同分割人ノ数軍ニ二人ノミナルトキハ一人ハ債権者ニシテ一人ハ債務者ナルガ故ニ弱シド無資力ノ場合ニ於ケル担保ノ問題ヲ生ズルコト莫カルベシ即

千債権者ハ直接ニ且ツ専ラ第百七十条第一号及ビ第二号ノ明文ニ基キ補足金若クハ競落金ノ負担ヲ有スル不動産ニ付テ先取特権ヲ行フベシ然レトモ共同分割人ガ三人以上ニシテ且ツ債務者ガ自己ノ持分ニ帰シタル不動産ノ負担スル先取特権ヲ以テスルモ仍ホ此義務ノ弁済ヲ為スコト能ハサル場合ニ於テハ債権者ニ訓ラサル他ノ共同分割人ハ此部分ニ付キ債務者タル分割人ノ無資力ヨリ生スル一種ノ追奪ヲ債権者タル分割人ニ對シテ担保スル義務ア

ルモノナリ此ノ如ク先取特権ノ効力ヲ以テスルモ仍ホ分割人カ義務ノ弁済ヲ為スコト能ハサルハ実際ニ於テ其不動産ガ消滅若クハ毀損等ノ場合ニ於テ生ズル所ノコトナリ

第二ノ場合共有財産中ニ属シタル一ノ債権ヲ以テ分割人ノ一人ノ持分ト為シタル場合ナリ

先ヅ此債権ニ付テ義務ヲ有スルモノガ第三者ナル場合ヲ假想スベシ此時ニ当リ若シ債権者ガ期限ニ於テ弁済ヲ為サヾルトキハ此債権ヲ以テ持分ト為シタル共同分割人ハ恰モ其債権

ヲ債権者タル分割人ニ對シテ担保スル義務ヲ

が全ク存在セザリシモノタルトキ若クハ其債
権ガ共通財産ノ一部ニ属セサリシガ為メ追奪
ヲ受ケタルトキト同ジク甚ダ不利益ヲ蒙ムル
ベシ然ルニ他ノ共同分割人等ハ共有財産中ヨリ
一個若クハ数個ノ不動産ヲ受ケ何等ノ損害ヲ
蒙ムルコト有ラサルナリ此場合ニ於テ債権ヲ
以テ持分ト為シタル分割人ガ債務者ノ無資力
ヨリ生スル損害ニ付テ他ノ分割人ヨリ担保ヲ
受クルコトハ前ニ掲ゲタル普通ノ追奪ヨリ生
スル損害ニ付キ同一ノ担保ヲ有スルト其理ヲ

スル損害ニ付キ同一ノ担保ヲ有スルト其理ヲ

同フスルモノニシテ全ク至当ナルモノナリ然レトモ立法者ハ右ノ場合ニ於ケル担保ニ一個ノ条件ヲ必要トセリ即チ債務者ガ分割ノ当時ニ於テ已ニ無資力ノモノタリシコト是レナリ而シテ此ノ如キ条件ハ前ノ場合ニ於テ法律ノ設ケザル所ノモノナリ此ノ如ク此場合ニ限リ新タナル条件ヲ設ケタル所以ノモノハ必責ヲ負フ分割ノ当時已ニ債務者ガ無資力ナル場合ニ限リ始メテ分割者一同ハ此無資力ヲ知ラザリシ過失アリト謂フコトヲ得ベク且ツ分

割ノ時ニ於テ分割ノ事為ニ依リ一人ニ損失ヲ蒙ラシメ他ノ分割者ノミ不当ノ利益ヲ得タリト謂フコトヲ得ベケレバナリ

若シ会社若クハ相続ニ對スル債務者ガ自カラ共通財産ノ分割人ノ一人タル場合ニ於テモ右ニ述ブル所ト同一ノ理由ニ依リ同一ノ決定ヲ為スヲ可キモノナリ

之ニ反シテ共通分割人ガ補足金若クハ競落代金ノ債務者タル場合ニ於テ其債務ノ弗流ガ分割人ノ無資力ノ為メ為サルヽコト能ハサル場

割人ノ無資力ノ為メ為サルヽコト能ハサル場

合ニ於テハ雖仮令其無資力ガ分割以後ニ生ジタ
ル場合ニ於テモ亦共同分割人ハ追奪担保ノ義
務ヲ免カルヽコト能ハズ蓋シ此場合ニ於テハ
債務者ノ無資力ガ已ニ分割ノ当時ニ生ジタル
コトハ殆ント之ヲ想像スルコト能ハサルハナ
リ若シ真ニ分割ノ時ヨリ無資力ナルモノナリ
トセバ他ノ分割人ハ決シテ知ラサルコト勿カ
ルベシ従ツテ無資力者ヲシテ補足金若クハ競
落代金ノ義務ヲ負ハシメ且シメ之ニ對スル権利ヲ
以テ他ノ分割者ノ一人ノミノ持分ト為シ結局

分割ノ不平均ヲ生セシムル如キコトハラサル
可ケレバナリ分割以後ニ生ジタル債務者ノ無
資力ニ至ツテハ凡テノ分割人カ担保ヲ為スコ
ト正当ナリトス何トナレバ分割ノ行為ニ依リ
共同分割者一同ノ承諾ニ基キテ生セシメタル
債権ノ運命ニ属シ分割人等ハ其一人ノミヲシ
テ是レガ損失ヲ負担セシメ全ク傍観ヲ為スヲ可
キニ非ラサレバナリ此故ニ主位者ハ弱シト雖共
同分割人ヲ以テ右ノ債務ニ付キ黙示ノ合意ヲ
以テ保証ヲ為シタルモノト如クニヲ看做シ而

以テ保証ヲ為シタルモノヽ如クシテ之ヲ看做シ而シテ是レニ負ハシムルニ未必ノ担保ノ義務ヲ以テセリ

要スルニ本条ノ明文ニ依リ二個ノ場合ヲ区別シタル所以ノモノハ担保ノ義務ヲ負ハシム可キ無資力ノ生シタル時期ニ至シ此差異アルガ為メナリ

第百七十二条

分割ノ場合ニ於ケル追奪担保ノ権利ニ附着スル先取特権ノ公示ハ交換ノ場合ニ於ケル先取特権ノ公示ト均シク其目的物ノ動産ナルト不

動産ナルトニ拘ラズ期間及ビ補足ニ関シテ同一ノ条件ヲ要スルコト自然ノ理ナリ此故ニ立法者ハ此点ニ関シ之ヲ第百六十八条ノ想定ニ譲レリ

然レトモ債務者ノ無資力ヨリ生スル担保ノ権利ノ期間ニ付テハ第百六十八条ニ於テ立法ニ関シ法文ノ想定存セサルカ故ニ特ニ本条ニ於テ之ヲ明定スルコトヲ要ス蓋シ交換ノ場合ニ於テモ補足金ヨリ生スル債権アルコトヲ得ヤ(直接)ト雖トモ此債権ハ債務者ニ対スル先取特権

ヲ生セシムルノミニシテ分割ノ場合ニ在テ共同分割人ガ担保ノ義務ヲ有スルガ如ク債務者ノ無資力ニ属スル担保アラサルヲ以テナリ

本条ニ於テ債務者ノ無資力ニ属スル担保ノ期間ヲ定ムルニ当ツテハ其債権ガ補足金ナルト又ハ共同分割人ノ一人ヨリ弁済スベキ競落代金ナルト又或ハ分割以前ヨリ存在スル債権ニシテ共同分割者ノ一人ノ持分ニ帰シ第三者ノ負担スル債務ナルトニ従ツテ区別ヲ為スコトナシ又共同分割人ガ互ニ一身上担保ノ義務ヲ

ヒト金トモ此債権ハ債務者ニ対スル直接ノ先取特権

有スルト其持分ニ帰シタル不動産ガ此義務ヲ負担シ債権者若クハ第三取得者ノ如キ第三者ニ對抗スルコトヲ得ベキモノナルトヲ区別スルコトナシ然レトモ債務ガ一ノ元本ヲ目的トスル場合ト年金ナル場合トハ之ヲ区別セリ

若シ元本ノ債務ナルトキハ追奪担保ノ期間ノ起算点ハ其担保ガ對人ノモノナルト物上ノモノタルトヲ問ハズ其債務ノ全部若クハ一部ノ要求ヲ為シ得ベキトキナリトス而シテ其行使ヲ為シ得ベキ期間ハ一ケ年ナル故ニ若シ共同

ヲ為シ得ベキ期間ハ一ケ年ナル故ニ若シ共同

分割人ニシテ無資力ノ担保ニ属スル権利ヲ保存セントスレバ一ケ年内ニ請求ヲ為シ且ツ同一期限内ニ之ヲ公示スルコトヲ要ス然ラサレバ其権利ヲ失フベシ若シ一ケ年内ニ於テ担保人ニ對シ請求ヲ為スモ之ヲ公示セサリシトキハ担保ノ請求者ハ担保人ニ對スル對人ノ訴権ヲ保存スルノミニシテ第三者ニ對抗シ得ベキ先取特権ヲ失フモノナリ

是レニ反シテ債権ガ年金権ナル場合ニ於テハ無期ノモノナルト終身ノモノナルトヲ問ハズ

元本ヲ要求シ得ベキモノニ非ラズシテ單ニ年金ノ要求ヲ為シ得ベキト止マルノミナラズ他ノ一方ヨリ観察スルトキハ年金ノ担保モ亦永久無期ナルベキニ非ラサルヲ以テ立法者ハ分割ヨリ起算シ十ケ年間ニ之ヲ制限セリ蓋シ十ケ年間正確ニ毎年ノ年流ヲ受ケタルトキハ得未ニ於テモ亦同一ノ年流ヲ受クルコトヲ得ベキハ容易ニ信ジ可キ所ニシテ此期限ハ此点ニ於テ充分ノモノナルヲ可ケレバナリ

右ニ説明スル如ク元本ヲ要求スルコトヲ得ベ

右ニ説明スル如ク元本ヲ要求スルコトヲ得ベキ債務ト年金債権トノ間ニ区別ヲ為シタルガ為メ立法者ハ遂ニ元本ヲ請求シ得ベキ債務ト年金トモ其期限十ケ年以上ニシテ其以前ニ在テハ毎年ノ利息ヲ生ス可キモノヲ以テ右ノ点ニ至シ年金債権ト同一視スルニ至レリ即チ此ノ如キ債権ニシテ十ケ年間債務者ガ利息ノ弁済ヲ怠タルコトナク経ツテ其無資力ヲ発見スル能ハザル場合ニ於テハ前ニ掲ゲタル担保ノ権利ハ消滅スルモノトス

第百七十三条

本条ノ明文ニ由テ第百六十九条ノ規定ニ譲リタル事項ハ特ニ該明ヲ要セズ蓋シ先取特権ヲ負担スル財産ニ加入スル増價及ビ改良ニ付テハ先取特権ヲ及ボスヿヲ可キ理由是レアラサルヿト第百六十九条ノ場合ト同一ナレハナリ

第三則　工匠技師及ビ工事負負人ノ先取特権

第百七十四条

本条ニ掲クル第三ノ先取特権ハ前ニ規定シタル二個ノ先取特権ト左ノ点ニ於テ異ナリ即チ本条ノ先取特権ハ全部若クハ一部ニ於テ債務

者ノ資産中ニ加ヘラレタル新タナル不動産ニ
関スルモノニ限ラズ全ク其不動産上ニ為シタ
ル行使ニ依リ基ヒテ其ノ多少ノ価額ノ増
加ヲ以テ之タルニ基クモノナリ
此故ニ本条ノ先取特権ノ目的トスル所ハ不動
産ノ全部ニ限ラサルコトヲ知ラスヤシ即チ行
使ニ由テ生シタル増價ノ額ニ止マルモノナリ
此ヲ以テ此増價ノ額ハ適法ニ減少セラルヽ
トヲ必要トス
本条ノ規定ハ唯之法者ガ先取特権ヲ有スル債

本条ノ先取特権ハ全部若クハ一部ニ於テ債務

権ノ正当ナル原因ト為ルコトヲ得ベキモノト看做シタル主タル工事ノ性質ヲ指示スルニ止マル然レトモ本条ノ指示ハ決シテ限定ノモノニ非ラズ此事ハ第一項ノ明文ニ由テ明カナルベシ

又本条ニ債権者ノ種類ヲ掲ケタリト雖ドモ同ジク例示ノモノニ過キスシテ決シテ限定ノモノニ非ラズ此故ニ工匠ニシテ建物ノ設計及ビ製図ヲ為シタル場合アルベク或ハ現ニ工事ヲ指揮シタル場合アルベシ又技師ニシテ堤塘運

指揮シタル場合アルベシ又技師ニシテ堤塘運河其他乾燥及ビ灌漑等ノ工事ヲ為シタル場合アル可ク工事受負人ニシテ右ニ掲ケタル如キ工事ヲ為シ或ハ自カラ其設計ヲ為シタル場合アル可シ

工夫ニ至テハ唯毎日ノ賃銭ヲ請求スル権利アルノミニシテ実際上是レニ對スル債務者タルモノハ工夫ヲ使用スル工事受負人ニシテ所有者ハ直接ニ是レト契約ヲ為スモノニ非ラズ故ニ本条ニ掲グル先取特権ニシテ工夫ヲ利スルニト有リト雖モ是レ実ニ財産編第三百三十九

条ニ規定シタル間接ノ許権ニ依ルモノナリ

本条第二項ノ規定ハ鑛坑及ビ石工ノ事業ニ関シテ特ニ其適用ヲ看ルモノナリ此等ノ工事ハ時トシテ外部ノモノタルコト有ルヘク又時トシテ地下ノモノタルコト有ルヘク或ハ外部及ビ地下ニ於テ之ヲ為スコト有ルヘシ法律上ノ観察ニ於テハ其工事ノ種類如何ニ由テ区別ヲ為スコトナシ之法者ガ此ニ其種類ヲ指示スル所以ノモノハ主トシテ先取特権ノ原因タルベキ重要ノ性質ヲ示スニ在リ然レトモ唯充ノ注意ヲ為ス

ニトヲ要スル即チ技能及ビ工事ヲ要スル人ニシテ本
条ノ先取特権ヲ行使スルモノハ会法ニ定メタル
特別ノ規定ニ従フコトヲ要スルコトヨリ

第百七十五条

本則ノ場合ニ於テモ先取特権ノ原則及ビ其正
当ナル原因ニ至テハ他ノ場合ニ於ケルト均シ
ク其効力ヲ生ゼサル債権者ニ由テ債務者ガ資産
中ニ新タナル信認ヲ得タル点ニ在リ

本条第一項ノ規定ニ依レバ第三ノ先取特権ハ

性質ヲ異ニ在リ然レトモ唯其ノ注意ヲ為ス

先取特権ヲ行使スルノ当時即チ債務者ノ財産
請算ノ当時ニ於テ現存スル総額ニ付テノミ
行ハルヽモノナリトス蓋シ決シテ厳ニ失スル
モノト謂フ可カラズ何トナレバ債主ノ先取特
権ト雖トモ亦壹却シタル不動産ニシテ現存ス
ルモノニ付テ行ハルヽニ過ギサレバナリ
立法者ハ三個ノ調書ヲ作ルコトヲ必要トセリ
而シテ其理由ハ容易ニ之ヲ解スルコトヲ得ベ
シ三個ノ調書ハ裁判所ノ命シタル鑑定人之ヲ
作ルモノトス蓋シ利害関係人ノ命シタル鑑定

作ルモノトス蓋シ利害関係人ノ余ニタル鑑定

人ヲシテ之ヲ作ラシムル如キハ到底為シ得ベキ所ニ非ラズ何トナレバ利害関係人タル債権者ノ團体ト雖トモ未タ代表者ヲ有セサレバナリ然レトモ三個ノ調書ヲ作リタル鑑定人ガ同一ノ人タルヲ要スルヤ将タ同一ノ人タラサルヲ要スルヤハ法律ヲ以テ一定スル所ニ非ラズ故ニ同一ナルコトヲ得ベク又時トシテ同一ナラサルコトヲ得ベシ

第一工事ヲ為スニ際シテ財産ノ形状如何ナリシヤヲ明カナラシムル為メ第一ノ調書ヲ作ル

コトヲ要ス然レトモ此調書ヲ作ルニ当ツテヤ
工事ヲ施ス可キ不動産ノ現実ノ價額ヲ評定セ
ニムルニ非ラズ何トナレバ此ノ如キハ徒ラニ
手数ト費用トヲ要スルモノナレバナリ故ニ唯
将サニ施サントスル工事ノ概略ヲ指示スルニ
止マルモノトス又立法者ハ工事ノ為メ必要ナ
ル費用ノ額ヲ評定セニムルモノニ非ラズ何ト
ナレバ費用ノ豫算ハ必ズシモ其決算ト同一ナ
ルモノニ非ラズ屢々意外ニ多額ノ費用ヲ要ス
ルコト有レバナリ立法者ガ主トシテ調書ヲ作

ラシムル所以ノモノハ工事後ニ於ケル不動産ノ形状ニ比較スル為メ其以前ノ形状ヲ知ルノ一点ニ在リトス

第二ノ調書ノ目的トスル所ハ実ニ工事ヲ終リタル当時其工事ノ為メ不動産ニ付シタル価額ノ増加ノ多少ヲ知ルニ在リ而シテ其期限ハ工事ヲ終リ若クハ中止シタルトキヨリ三ケ月ノトキニ於テス其中止ノ原因ガ天災事変等ニ出テタル場合ト雖トモ異ナルコトナシ経ツテ所有者ガ資本ノ缺乏ノ為メ工事ヲ中止シタル場

ルコト有レバナリ立法者ガ主トシテ調書ヲ作

合ニ於テモ同一ナリトス然レトモ自然ノ障害若クハ器械物料等ノ到達ノ遅延ノ為メ一時工事ノ中止ヲ為シタルニ過キサル場合ニ於テハ総合其中止ガ多少長ク継続シタルトキト雖トモ右ニ掲ケタル場合ト同一視セサルコトヲ要ス工事ノ受取ニ付キ爭ヒアル場合ニ於テモ是レガ為ニ三ケ月ノ期間ヲ延長セシメザルコトハ本条ノ特ニ明定スル所ナリ

立法者ハ三ケ月ノ期間ヲ以テ不動産ノ評價并ニ調書ノ調製ノ為メ充分ナル時日ナリト思量

セリ而シテ徒ラニ長ク時日ヲ経過セシムルハ
種々ノ利害実係人ノ為ニ甚タ不利益ナル所ト
ス何トナレバ時日ヲ経過スルニ従ツテ工事ニ
基ク不動産ノ増價ノ多少ヲ知ルコト益々困難
ナルニ至ルヲケレバナリ
第二ノ調書ニハ所有者ガ其工事ヲ完全ナリト
シテ受取リタルコトヲ掲クルモノニ非ラズ故
ニ工事受負人ガ所有者ニ對シテ有スル債権モ
亦此調書ニ於テ確認セラレズ又ハ全ク記載セ
ラレサルコト有ルベシ蓋シ其調書ノ目的トス

ル所ハ債権ノ多少ヲ證スルニ非ラスシテ唯其
債権ノ担保ノ目的トナリ從ツテ他ノ債権者ニ
利益ヲ與ヘサル不動産ノ增價ノ多少ヲ証スル
ニ在ルガ故ニ債権自体ニ至レテハ調書ニ記載
スル所アルヲ必要ト為サズ然レトモ他ノ債権
者等ハ是レニ對シテ優先権ヲ有スル債権ノ多
少ヲ知ルニ付キ甚ダ利害ノ関係ヲ有スルヤ明
カナリ此ノ如キハ先取特権ヲ公示スル為ニ定
メタル登記ニ由テ知ルコトヲ得ベキ所ナリ」
第三ノ調書ハ其必要ナルコト決シテ第一及ビ

第三ノ調書ハ其必要ナルコト決シテ第一及ビ

第二ノ調書ニ下ルモノニ非ラズ何トナレバ第二ノ調書ヲ為シタルトキト不動産ノ競賣ヲ為シタルトキトノ間ニ多少ノ時日在ルコトヲ得ベク経ツテ一旦生ジタル不動産ノ増價モ亦減少シタルコト有ル可ケレバナリ不動産ノ増價ヲ減少シタルコトナク却テ増加シタル場合ハ之ヲ稀想スルコトヲ要セズ何トナレバ第一此ノ如キ増價ハ工事ニ実係ナキ他ノ新タナル事因ニ由テノミ生ジ得ベキ所ナルノミナラズ仍チ此新タナル増價ハ登記ニ由テ公示セラレサ

ルガ故ニ普通債権者ニ對シ優先権ヲ以テ一人ノ利益ニ帰シ得ベキモノニ訓ラサレバナリ

第三ノ調書ハ之ヲ第一及ビ第二ノ調書ニ比スレバ容易ニ調製スルコトヲ得ベシ何トナレバ鑑定人ハ第二ノ調書ヲ基礎ト為シ而シテ其以後ニ於テ生シタル増價減少ノ原因ヲ考ヘ第二調書ノ当時ニ於ケル増價額ヨリ之ヲ加除スルニ止ルヲケレバナリ

第四則　金銭貸主ノ先取特権

第百七十六条